

あゆみ通信

VOL. 107

あゆみの会(真宗大谷
派大阪教区第2組同朋
の会推進員連絡協議会)
会長 浪花 博
広報 本持 喜康

迷いの身に気づく

仏・法・僧を、三つの宝物「三宝」と言います。宝と言いましても、私たちを支えてくださる宝です。お金は確かに大事です。



けれども真実の支えるものではないでしょう。私のご門徒さんに、80歳になられるおばあさんがおられます。お連れ合いが亡くなってその大きな屋敷をお金に換えて、大きなマンションのてっぺんに住んでおられます。ところが後に財産を譲っていくお子さんが居られないのです。それで結構なところに住んでいても「寂しい寂しい」とおっしゃっているのです。お金はどうでもいいとは言いません。でも、それは私たちを本当に支えるものにはならないのです。やがてそれはみんな置いて行かねばなりません。

大切なことは、本当にこの人間に生れてよかった、「ありがとう」「おかげさま」と毎日を生きられる帰依処をもっているかどうかです。支えるものを間違ったら、この人生が一体どこに立ち何処へ帰っていくのかわからず、ぐるぐると回っているうちに、結果

は寂しく空しい人生になっていくのではないのでしょうか。実は我々、みんなこの環状線に乗っているのです。乗っていない人は一人もいません。しかし、「環状線に乗っているなあ」、気付かせてくださるのが南無阿弥陀仏の教えなのです。「迷っているなあ」と気付いたらさっと元へ戻る、帰らせていただく立脚地がどんな人にもあります。如来の弘誓願を聞信すれば、どれだけ迷っていてもいいんです。安心して迷っていける。仏様は迷うなどはおっしゃっていません。「迷うでおるぞ」と気付かせてくださる。この迷いを機縁にしてさっと立ち返ることができる。そしてまたこの現実の娑婆世界のいろんな問題を担って、命ある限り生きいきと、それぞれ与えられた大事な仕事、その人にしかできないその仕事を担っていく。仏様の御恩を知り、ご恩に報い応えて生きて行く道を、お互い見つけて行きたいと思います。

(藤井 善隆「仏様のお弟子になる一帰敬式を受けて始まる歩み」東本願寺出版)

難波別院「銀杏通信」に、第2組行事を掲載中。

あゆみの会総会案内

日時 2017年12月17日(日)

午後2時から

会場 了安寺(天王寺区生玉寺町)

内容 総会・法話・懇親会

講師 王来王家純也先生

(大阪教区駐在教導)

参加費 2000円

(お斎料など)

別途、ご案内をしますのでもよろしく
お願いいたします。



予告 第33回 第2組同朋大会

2018年3月3日(土) 難波別院

で開催予定の第2組

同朋大会に、講

師にマスコミ

で活躍中の佛

光寺派住職の

英月先生(京

都・大行寺

住職)をお招き

する予定。乞う、ご期待。



親鸞聖人に遇う

10月7日から9日の2泊3日、第2組第4回推進員養成講座「共に真宗に聞く会」の本山教習が、開催されスタッフの一員として参加した。会場は7月に新築なったばかりの、ホテルのような和敬堂と研修道場。3人の補導さんと打ち合わせた後、日程が始まり、久しぶりに充実した3日間を過ごせた。両堂参拝で、晨朝参拝で宗祖親鸞聖人にお会い出来、厳粛な雰囲気の中で、ひとり一人が感無量で向かい合った事である。思わず、無意識のうちに語りかけている自分がいて、やさしく声をかけていただいた気がした。合掌。

朋友会・あゆみの会 合同研修会報朋告



2017年9月26日(火) 午後1時30分より、朋友会(第2組青年住職・寺族会)とあゆみの会との合同研修会が稱念寺(岸野龍之住職)で開催され、住職・寺族7名、あゆみの会から12名が参加した。3年前から朋友会と協議して開催され、次代の第2組の寺院を担う青年住職・寺族と第2組寺院の興隆と発展を願うお互いの立場と願いを共有していく集いである。事務局の進行で、真宗宗歌斉唱、そして朋友会の友澤秀三会長(南照寺)の挨拶の後、前半は藤井真隆氏(即應寺)から「仏にお育てをいただいて」をテーマに自身の悩みと寺への疑問。学生時代の恩師の励ましや、僧侶となり、教誨師として訪れた少年院での少女からの心の叫びなどをお話いただいた。後半は岸野龍之住職の進行で、どうしたら聞法の間を持つことができるかなど、いろいろ意見が出た座談となった。最後に浪花博あゆみの会会長から今後も共に聞法をと、閉会挨拶、恩徳讃で終わった。



**藤井真隆氏
法話要旨
教えに遇う**
先生ははじめに、
仏様の教えに遇

わなければ、本当に生きていくことが出来ないと言われた。

高校時代、僧というものを憎み、周りに反抗していたが大学に入り、多くの先生方の暖かい指導を受け、自分のこれまで考えていた世界と仏様の世界は違うのではないかという疑問がわき、自分というものに眼が向き、真面目に仏教について学ぶようになった。



たすかるとは？

僧侶となり教誨師の仕事で少年院を訪れた際、少女から「いのちが尊いなんて、まったく思わない。先生は人生がかけがえがないと言われるが、そんな人が何処にいるのか」と叫ぶように問いかけられた。少女は母親から暴力を受け、同級生からいじめを受け、何度も自殺を試みている。また、新聞の投書欄で、東北大震災で、津波が迫り、祖母と離れ死なせた自分を悔い、憎んでいる女性。この人たちは、ずっと助からないのだろうか。人間が助かるとは、どういうことなのか。大きな課題をいただいた。

往生とは？

誰であれ、生老病死、この生死の苦悩から解放されることはない。その苦悩から免れることのない私たちに、親鸞聖人は「往生」という道を勧めてくださっている。宮城顕先

生は「往生」と言っても苦しみが無くなることではないと、。往生とは、夢のような別の世界に行くことか。

「即得往生 住不退転」とは、現生不退という道が与えられる。

往生とは自分の人生から逃げ出さない。どんなことが起こっても、それが事実なら勇気をもって受けていくぞと。普段自分の思いで生きているものが、お念仏の智慧をいただいて、立っている場所が変わる。

真実の智慧を失っている私たちに、主体(いのち)を取り戻させたいと。



いのちからの呼びかけ

お念仏は、いのちの方から呼びかけ、呼び覚まし、呼び戻して下さっておられる声である。

それが私の人生ならどんなに苦しくても、生きて尽くして行きたいではないですか。それが深い本心ではないですか。そのことを聞くのが聞法でしようと、熱く語ってくださった。(報告と要約は細川克彦氏にご協力いただき、見出しと編集は事務局)

人生は長さだけではない。幅もあれば深さもある。 金子大榮